

令和六年歌会始のお題

歌に詠む場合は「和」の文字が詠み込まれていればよく、「平和」、「調和」、「和服」のような熟語にしても、また、「和らぐ」、「和む」のように訓読しても差し支えありません。

和

詠進歌の詠進要領

- ◆ 詠進歌はお題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限りま。
- ◆ 書式 用紙は半紙とし、記載事項は全て毛筆で自筆してください。
- ◆ 期間 9月30日(土)まで(消印有効)
- ◆ 宛先 〒100-8111 宮内庁※封筒に「詠進歌」と記載

双葉俳壇一一六一回句集【岩城】

多摩川のたゆたう流れ春浅し 伊佐 幹男
人去りて焚火の跡や春浅し 田中 華丘
春浅し陽輝けど風冷し 澤田 丈子
介護者の通う島道草青む 林 波恵
下萌に生くる力を漲らせ 幸本 郁夫
土割りて出でし命や下萌ゆる 山元 征子
春浅し弥陀に抱かれ彼方なり 美濃部妃苗
下萌えやのびする稚児の頬赤し 森本 伸子

下萌の足裏やさしきスニーカー 古林 幹枝
春浅し水戸の梅林客まばら 田名後篁雨
戯れ合える磯打つ波の春めけり 幸本 孤燈

【祝入選】
第四十一回今治市中央公民館文化祭短歌大会(課題詠の部) 山元征子さんが銅賞(今治市中央公民館長賞)を受賞されました。
入選歌
朝風 of 海真二つに裂くごとく
快速船の水尾伸びゆく
四作連続入賞、本当におめでとうございます。

愛媛マラソンの思い出

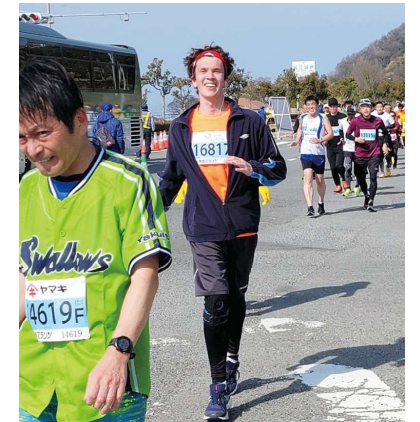
こんにちは。弓削の ALT のジョージです。春になって少し暖かくなってきましたね。さて、今回愛媛県の最大イベント、愛媛マラソンについて書かせていただきたいと思います。今大会は、3年ぶりの開催でした。実は僕も参加しました!

僕はそこまで足が速くはないですが、ランニングが大好きなのでエントリーして、幸運なことに当選しました。「Marathon」の定義である42.195キロの距離を一度も走ったことがなかったので、本当に走り切れるかなあと不安で胸がいっぱいでした。秋も冬も思うようにはトレーニングできなかったのも、愛媛マラソン当日は緊張感もありました。でも、とてもワクワクしていて不思議な気持ちでした。ちなみに、マラソンへのエネルギーを蓄えるために、前日に、美味しい大盛りのスパゲッティを食べました。その結果、レース日はとても元気でした。マラソンのスタート地点は松山公園のあたりでした。たくさんの人が集まっていた。10時にベルが鳴って、マラソンがスタートしました。コース沿いの歩道に応援してくれる方々とボランティアの方々が、いっぱい居ました。スタートからゴールまで道路の両側に、「頑張れ!」や「go for it!」などのあたたかい声援がずっと聞こえていました。その素敵な声を聞くと、もっと頑張らなきゃと思いました。ボランティアの方々が、飲み物やスナックも提供してくれました。僕はタルトや坊ちゃん団子などの愛媛県の特産品をいただきました。

英会話教室

弓削 月 19:30 ~ 弓削地域交流センター
生名 月 11:00 ~ 3分団集会所
岩城 木 20:00 ~ 岩城総合支所庁舎

ずっと楽しみにしていた愛媛マラソンを一度も歩くことなく最後まで走り切れました。応援してくれた方々とボランティアの声援があつての完走でした。愛媛県の人々のおもてなしの心に非常に感謝しております。



今月の担当 ALT
マリンズ・ジョージ (弓削)

9Th Kamijima Photograph Contest

第9回 かみじまフォトコンテスト



ゆめしま海道賞
吉川 航太さん(愛媛県西条市)

お問い合わせ ☎0897-72-9277

上島町観光協会
Kamijima Tourism Association

第9回かみじまフォトコンテスト「しまの暮らし しまの旅 つなぐ ゆめしま海道」の審査会を去る2月16日(木)に行いました。

今回の応募総数は140点。テーマに沿った作品が全国各地から寄せられ、厳選する審査の結果、ゆめしま海道賞を含む8点の作品が選ばれました。

ゆめしま海道賞は、吉川 航太(ヨシカワ コウタ)さん(愛媛県西条市)の「岩城橋のタイムスリップ」です。

夜間撮影で岩城橋を走る車の光跡を未来や過去へタイムスリップしているかのように切り撮っています。

その他の素晴らしい受賞作品

も瀬戸内かみじまトリップ(上島町観光WEBサイト)にて発表しておりますので、ぜひご覧になってください。

https://www.kamijima.info/info/kamijima_photo_contest_9th_award/

(QRコード)



審査会風景

<http://www.kamijima.info>

かみじま郷土話 18

岩城の海城

先日、弓削高校の生徒さんや先生と一緒に、岩城八幡神社を訪れました。「岩城島における村上海賊の活躍」をイメージできるポスターを作りたいとの事で、神社がある亀山城跡の見学が主な目的でした。

亀山城の城主は、因島村上氏である村上修理亮敬吉などが挙げられており、築城は明德3年(1392)とされています。村上敬吉は、因島と生名島の間にある亀島(竹島城)などを傘下に収める海賊でした。築城の際に、亀山にあった八幡宮は移転されたようですが、敬吉の子である義元により村上氏の氏神として亀山城内の現在の位置に移されたようです。

ドイツ人医師・博物学者のケン

ペルが、元禄4年(1691)に岩城島沖を通過した際の記録に、「樹木を負ひたる高き岩礁の上に寺社ありて、階段にて上るべし。岸边に立てる相重なれる二個の門はその入口なることを知るべし。」とあり、その寺社とは、岩城八幡神社の事ではないかと考えられています。また、亀山城跡の海岸部には9基の岩礁ピットが存在しています。ピットとは、柱を建てるための穴のことであり、岩礁をくりぬいて造られています。そのうち2基のピットには、鳥居が建っていたものとみられ、ケンペルの記録にある門であると考えられています。亀山の丘陵自体はそれほど高くはありませんが、海側・陸側から城内へと続く通路が長く作ら

れており、侵入者に対して横矢を射かけやすい造りになっているなど、工夫が凝らされています。



▲鳥居が建っていたとみられる岩礁ピット



教育課
曾根 大地